

## トラック輸送情報（平成20年10月分）

平成21年1月21日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：桑原、佐藤 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

### 1. 特別積合せ貨物

#### (1) 本月の概況

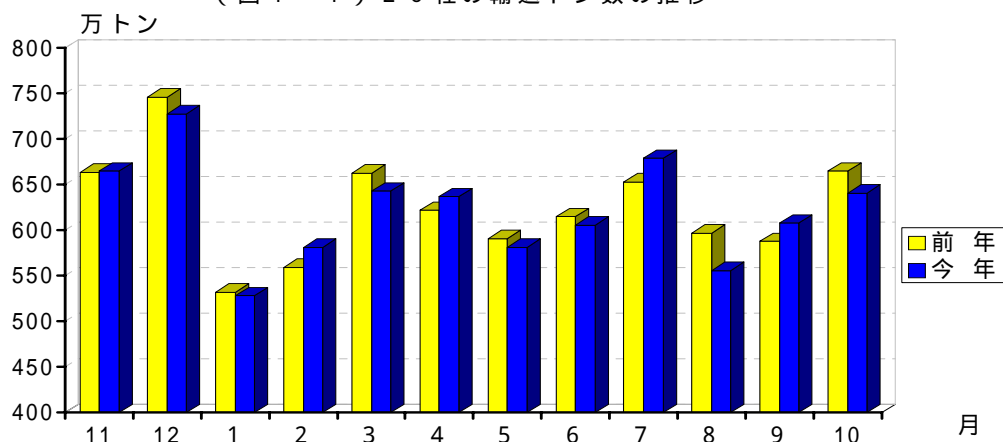
調査対象26社の本月の輸送量は、6,408,825トンで、前月と比べ総輸送量が約33万トン増加したため、前月比105.4%（季節調整済み98.6%）となり、前年同月との比較では、約24万トン減少したため、前年同月比96.4%の実績であった。

なお、平均稼働日数は25.1日で、前月と比べ1.6日の増加、前年同月と比べ0.3日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、255,332トンで、前月と比べ約3千トン減少したため、前月比98.7%となり、前年同月との比較では、約6千トン減少したため、前年同月比97.6%の実績であった。

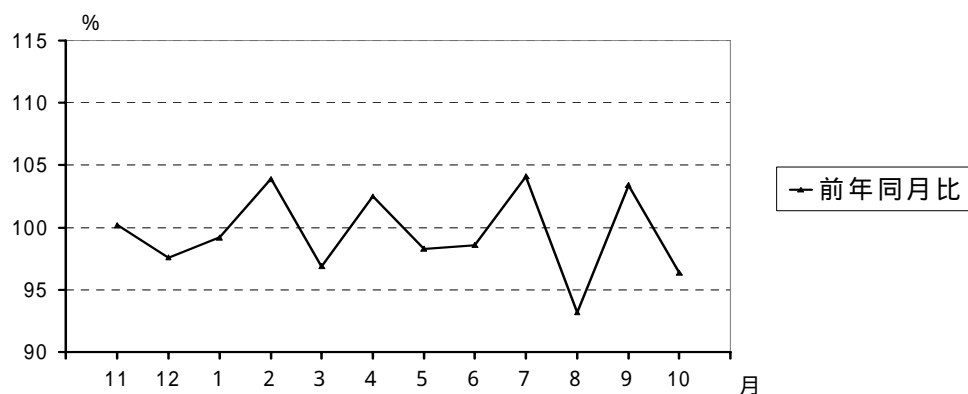
（図1-1、図1-2参照）

注）平成20年4月から貨物輸送の調査対象については、従来対象としていた7社の合併により26社となった。

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



（図1-2）26社の輸送トン数の前年同月比



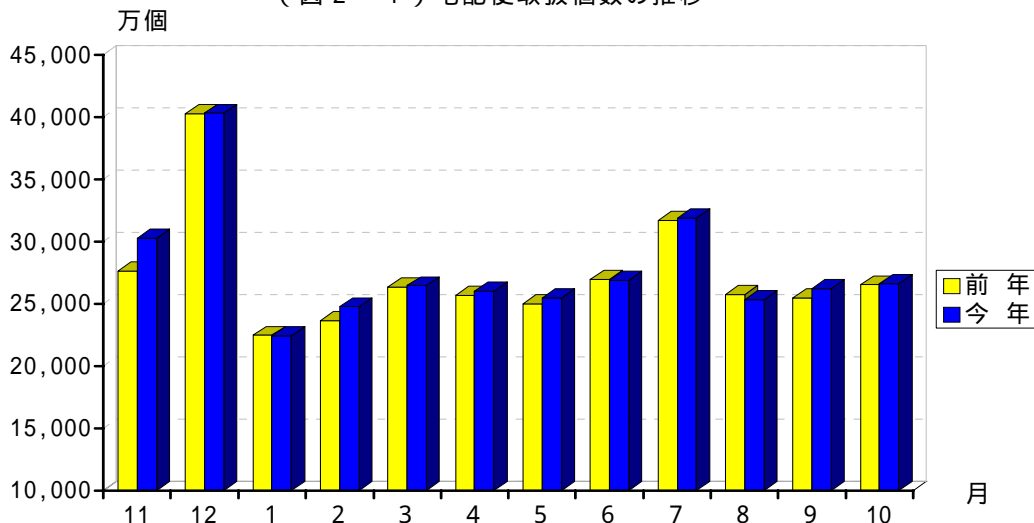
(2) 宅配便の概況

調査対象 20 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、266,266 千個で、前月と比べ 約 433 万個増加したため、前月比 101.7% (季節調整済み 101.8%) となり、前年同月との比較では、約 112 万個増加したため、前年同月比 100.4%の実績であった。

(図2 - 1、図2 - 2参照)

注)平成20年4月から宅配便輸送については調査対象が1社増え、20社となった。  
対前年同月比並びに対前月比は、20社ベースで比較している。

(図2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 26 社の品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、稼働日数の増加等により輸送量が増加した。増加要因としては、「農水産品」、「化学工業品」、「繊維工業品」、「食料工業品」及び「日用品」で工場・生産地からの貨物増があげられるほか、「化学工業品」では季節的需要増、「食料工業品」及び「日用品」では倉庫から出る貨物増等も要因となっている。地域的には、「繊維工業品」、「食料工業品」及び「日用品」がほぼ全国的に、「機械」、「化学工業品」、「その他(宅配便・百貨店配送品)」が東京、神奈川、大阪等を中心に増加した。

前年同月と比べると、景気後退の影響等によりほぼすべての品目で輸送量が減少している。「金属製品」、「化学工業品」では工場・生産地からの貨物減及び倉庫から出る貨物減が、「食料工業品」では倉庫から出る貨物減が、「日用品」では工場・生産地からの貨物減及び商社・問屋からの貨物減が、「その他(宅配便・百貨店配送品)」では商社・問屋からの貨物減が減少要因としてあげられる。地域的には「金属製品」がほぼ全国的に、「化学工業品」が神奈川、関東、大阪で、「日用品」が北海道、東北、関東で、「その他(宅配便・百貨店配送品)」が東北、関東でそれぞれ減少した。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因	
	著増	増	変らず	減	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	2	4	12		1	野菜、青果物	東北、神奈川、関東	4
	金属製品		5	14	2				
	機械		5	14	2		その他の機械	東京、関東、大阪	
	化学工業品		5	16	2		その他の化学工業品	神奈川、愛知、大阪	4, 8
	繊維工業品		6	16	1		織物	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿、中国	4
	食料工業品		8	11	2		飲料、その他の食料工業品、加工食品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、福岡	4, 7
	日用品		10	12	1		書籍・印刷物、見廻品、その他の日用品	北海道、東北、関東地方、愛知、近畿地方、中国、九州	4, 5, 7
	その他	1	8	12	1		宅配便、百貨店配送品	神奈川、関東	2
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		3	15	1				
	金属製品		1	11	9		その他の金属製品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	機械	1	1	13	6			大阪、近畿	4
	化学工業品			15	6	2	合成樹脂、その他の化学工業品	神奈川、関東、大阪	4, 7
	繊維工業品		2	16	5		織物		
	食料工業品	1	2	11	6	1	その他の食料工業品、加工食品		7
	日用品		2	11	9		書籍・印刷物、その他の日用品	北海道、東北、関東	4, 5
	その他		2	9	11		宅配便、百貨店配送品	東北、関東	5

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 793 社 / 調査対象事業者数 1,074 社）の輸送量は、前月比 105.9%、前年同月比 97.4%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前月比	105.9%	110.7%	109.4%	101.7%	102.3%	101.6%	106.6%	100.5%	102.2%	107.4%	105.9%
前年同月比	97.4%	98.8%	95.1%	95.2%	99.2%	94.0%	94.6%	95.8%	95.4%	101.1%	131.2%

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比 110.7%、対前年同月比 98.8%であった。品目別には、季節的需要増等により「その他の農産品」の輸送量に顕著な増加がみられたほか、「穀物」、「野菜・果物」の輸送量も増加した。また、建設関連の需要増等により「セメント」、「コークス・その他の石炭製品」の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減等により「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに微減傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 109.4%、対前年同月比 95.1%であった。品目別には、季節的需要増等により「穀物」等の輸送量が増加したほか、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「金属製品」の輸送量にも増加がみられた。一方、工場・生産地からの貨物減等により「化学薬品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 101.7%、対前年同月比は 95.2%であった。品目別には、季節的需要増により「紙・パルプ」の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減等により「金属製品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、対前月比 102.3%、対前年同月比は 99.2%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」の輸送量が増加したほか、「セメント」、「その他の窯業品」、「揮発油」の輸送量にも増加がみられた。一方、工場・生産地からの貨物減等により「石炭」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 101.6%、対前年同月比は一時的に荷主からの受注が増えたため、輸送量が 104.7%となった県もあったものの、逆に 86.0%と大幅に落ち込んだ県もあり、全体としては 94.0%と低調な動きとなっている。品目別には、「金属鉱」、「金属製品」、「セメント」、「その他の化学工業品」等の輸送量が増加した一方で、工場・生産地からの貨物減等により「機械」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 106.6%、対前年同月比は 94.6%であった。品目別には、季節的需要増等により「その他の製造工業品」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「金属製品」、「食料工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 100.5%、対前年同月比は 95.8%であった。品目別には、季節的需要増により「野菜・果物」の輸送量が増加したほか、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」の輸送量にも増加がみられた。一方、円高や景気後退等により多くの品目で輸送量に減少がみられ、特に自動車減産の影響を受けて「金属製品」、「その他の石油製品」、「その他の化学工業品」等で輸送量の顕著な減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 102.2%、対前年同月比は 95.4%であった。品目別には、収穫時期を迎えた「野菜・果物」の輸送量が増加したほか、建設関連の需要増等により「セメント」の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減により「紙・パルプ」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、今後予想される不況の影響もあり、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 107.4%、対前年同月比は 101.1%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」、「その他の農産品」、「畜産品」の輸送量が増加したほか、工場・生産地からの貨物増等により「砂利・砂・石材」、「工業用非金属鉱物」の輸送量にも増加がみられた。一方、建設関連の需要減等により「機械」の輸送量が減少したほか、季節的需要減等により「食料工業品」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比 105.9%、対前年同月比は 131.2%であった。品目別にみると、季節的需要増により「穀物」、「水産品」といった農林水産物の輸送量が増加した一方で、「木材」、「食料工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局											全国計
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄		
1. 穀物	増	6	6		1			1		1	1	16	
	減									1		1	
2. 野菜・果物	増	4	2		2			3	2	10		23	
	減	2	2	1			1	2	1	2		11	
3. その他の農産品	増	14						1	1	3		19	
	減	1								1		2	
4. 畜産品	増	1								3		4	
	減		1									1	
5. 水産品	増	2					1			1	1	5	
	減	1	1			1		1		1		5	
6. 木材	増	3	2		1		1	1		1		9	
	減	2	1		2			2			1	8	
7. 薪炭	増												
	減												
8. 石炭	増												
	減	1			2							3	
9. 金属鉱物	増					1				1		2	
	減												
10. 砂利・砂・石材	増	6	4		2			2		5		19	
	減	5			1					1		7	
11. 工業用非金属鉱物	増		2						1	3		6	
	減									1		1	
12. 鉄鋼	増		2	1			1	2		1		7	
	減	1			1		1	2		2		7	
13. 非鉄金属	増												
	減												
14. 金属製品	増	1	2			1		1				5	
	減			2	1		3	4		3		13	
15. 機械	増	1				1	1	4		1	1	9	
	減	1	1			2	1	5		4	1	15	
16. セメント	増	3	1		2	1		2	2	2		13	
	減	1						2		1		4	
17. その他の窯業品	増	1	1		2					1		5	
	減						1	2				3	

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増	2			2				1	1
	減		1									1
19. その他の石油製品	増	1			2			1		1		5
	減				1			4				5
20. コークス・ その他の石炭製品	増	2	1					1				4
	減											
21. 化学薬品	増		1					1	1			3
	減		2					1				3
22. 化学肥料	増	2						1		2		5
	減				1					1		2
23. その他の化学工業品	増					1	1	1		1		4
	減						1	4				5
24. 紙・パルプ	増	2	1	1				2		3	1	10
	減	1		1			2	5	1			10
25. 繊維工業品	増						1					1
	減							1				1
26. 食料工業品	増	1	2	1	1		1	5	1			12
	減	1	1	1			3	7	1	4	1	19
27. 日用品	増				1			1	1	2	1	6
	減					1		3				4
28. その他の製造工業品	増		2			1	3	2		1		9
	減		2		1		1	1				5
29. 金属くず	増							1		1		2
	減			1						1		2
30. その他のくずもの	増											
	減									1		1
31. 動植物性飼・肥料	増		2							1		3
	減	3	1				1					5
32. 廃棄物	増		1				1	1		1		4
	減											
33. 輸送用容器	増							1				1
	減	1							1			2
34. 取り合せ品	増		2					1			1	4
	減					1				1	1	3
35. その他	増		4	2	3	1	2	2		3		17
	減		2		2	3	2	2		4		15